あいのその　2022 年 7.8 月号

「水が顔を映すように、心は人を映す。」

（箴言 27 章 19 節）

愛の園保育園　042-325-1045

漫画『ドラえもん』の１エピソードに「ご先祖さまがんばれ」という物語があります。のび太が戦国時代にタイムスリップをして、戦で手柄を挙げることによって先祖を殿さまにし、そうやって歴史が変わることによって現代の自分が置かれた環境も変えようと考えます。しかし、いざ戦になったときのび太は、相対する二つの勢力のどっちに着けばいいのかわからず、正しい方はどっちなんだろうとドラえもんに尋ねます。するとドラえもんは「どっちも、自分が正しいと思っているよ。戦争なんてそんなもんだよ」と答えました。戦争というものの本質を突いた鋭い言葉だと思います。

聖書の中にも戦争のことがたびたび描かれていますが、今月の箇所は戦争とは直接関係ありません。しかし上述のドラえもんの言葉と相通ずるものがあります。旧約聖書・創世記は神がこの世のすべてを創り、人間が食べるに困らないだけの物を与えましたが、その楽園の中に「善悪の知識の木」を置き、その実だけは絶対に食べてはならない、食べると死んでしまうと命じました。しかし人間は蛇に唆され、食べてしまいます。その結果、死ぬことはなかったものの、楽園を追放されてしまいました。

それにしても、「善悪の知識の木」の実です。それを食べると、何が善で何が悪であるかがわかるという話なのですから、なぜそれを食べてはいけないというのでしょうか。それは、善悪を決めることができるのはただ神だけであるからです。人間が互いに善と悪を判断しようとすれば、結局は自分のことを善、自分と相反するものを悪とみなし、裁き合い、争い合うことになってしまうでしょう。まさにドラえもんが言っていたような、人間が戦争をしてしまう理屈です。だからその結果、死んでしまうというのです。聖書は一貫して、人間が神になろうとすること、神であるかのように振舞うことを禁じ、戒めています。それは人間が傲慢さを捨て、謙ってこそ、互いにこの世で生きることができるからです。

ロシアによるウクライナ侵攻が一刻も早く終わることを祈りつつ、私たち人間の死ではなく生を他の誰でもなく神が願っているのだということを心に留め置く者でありたいと思います。

（牧師　西脇　正之）